

令和7年度

Bring up 放課後等デイサービス 従業者アンケート 集計結果

【Bring up ちば子ども発達センター】

【Bring up みどり子ども発達センター】

【Bring up もりのみ幼児教室】



Bring up

【Bringupちば子ども発達センター】

《放課後等デイサービス》従業者アンケート集計結果

1. アンケート配布数・回収数・回収率

配布数	8	回収数	8	回収率	100%
-----	---	-----	---	-----	------

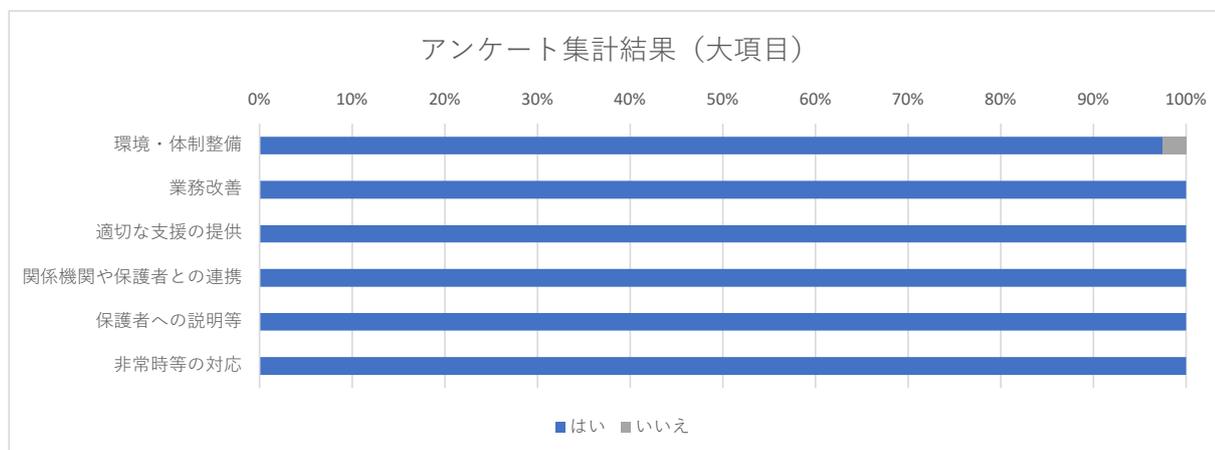
2. アンケート集計結果(大項目・小項目)

大項目	小項目	回答数			回答割合	
		はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	8	88%	13%
	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	8	100%	0%
	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	8	100%	0%
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	8	100%	0%
	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	8	100%	0%
業務改善	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	8	100%	0%
	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	8	100%	0%
	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	8	100%	0%
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	0	8	100%	0%
	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	8	100%	0%
適切な支援の提供	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	8	100%	0%
	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	8	100%	0%
	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	8	100%	0%
	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	8	100%	0%
	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	8	100%	0%
	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	8	100%	0%
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	8	100%	0%
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	8	100%	0%
	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	8	100%	0%
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	8	100%	0%
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	8	100%	0%
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	8	100%	0%
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	8	100%	0%
	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0	8	100%	0%
	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	8	100%	0%

関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	8	100%	0%
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	8	100%	0%
	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	8	100%	0%
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	0	8	100%	0%
	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	0	8	100%	0%
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	0	8	100%	0%
	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	0	8	100%	0%
	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	0			
	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	8	100%	0%
	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	8	100%	0%
保護者への説明等	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	8	100%	0%
	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	8	100%	0%
	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	8	100%	0%
	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	8	100%	0%
	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	0	8	100%	0%
	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	8	100%	0%
	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	8	100%	0%
	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	8	100%	0%
	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	8	100%	0%
	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	8	100%	0%
非常時等の対応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	8	100%	0%
	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	8	100%	0%
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	8	100%	0%
	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	8	100%	0%
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	8	100%	0%
	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	8	100%	0%
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	8	100%	0%
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	8	100%	0%
どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	8	100%	0%	

3. アンケート集計結果（大項目）

大項目	回答数			回答割合	
	はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	39	1	40	98%	3%
業務改善	40	0	40	100%	0%
適切な支援の提供	120	0	120	100%	0%
関係機関や保護者との連携	80	0	80	100%	0%
保護者への説明等	80	0	80	100%	0%
非常時等の対応	72	0	72	100%	0%



4. 自己分析

① 事業所の強み

多職種の職員が在籍し、職種や経験に関係なく意見を出し合いながら、チームで質の高い支援を行っている。子どもが「楽しい」と感じられる遊びの提供や、家族支援にも力を入れている。

② 工夫している取組

ケースカンファレンスや支援後の振り返りを定期的に行い、相談しやすい職場環境を整えている。研修参加や遊具・玩具の工夫、親子参加型イベントを通して支援の充実を図っている。

③ さらなる充実に向けた取組

専門分野以外の研修にも参加し、職員全体の支援力向上を目指している。外遊びの工夫やSNSを活用した情報発信により、活動や家族支援の幅を広げていく。

④ 事業所の弱み

業務量が多く、支援以外の業務に十分な時間を確保しにくい。職員数や外活動スペース、事業所の認知度に課題がある。

⑤ 課題の要因

人員に余裕がなく、業務負担が偏りやすい体制となっている。女性職員が多く、ライフステージの変化や広報不足が影響している。

⑥ 改善に向けた取組

業務の効率化や柔軟な勤務体制を進め、人材確保と定着を図る。

5. 所感

支援の質についてはガイドラインに則り、ケースカンファレンスで情報を共有し、従業員自ら質について意識しながら支援を実施できているという結果となりました。今後もより質の高い支援プログラムの提供を行ってまいります。

環境面において、利用定員に対するスペースは確保できているものの、十分に体を動かすことのできる広さがあるかという点に関して「いいえ」と回答した職員がおりました。思い切り体を動かす場合は、公園を利用するなどその場所にあった遊びを計画・提案していきたいと思っております。

放課後児童クラブなどとの交流や地域の他のお子様と活動する機会は、サービスの性質上実現が困難となっております。これまで同様、社会経験の機会として、公共の施設の活用、地域のお店への買い物体験学習など、地域の中での交流を意識した計画立案に努めてまいります。

児童発達支援管理責任者 小山徹信

《放課後等デイサービス》従業者アンケート集計結果

1. アンケート配布数・回収数・回収率

配布数	7	回収数	7	回収率	100%
-----	---	-----	---	-----	------

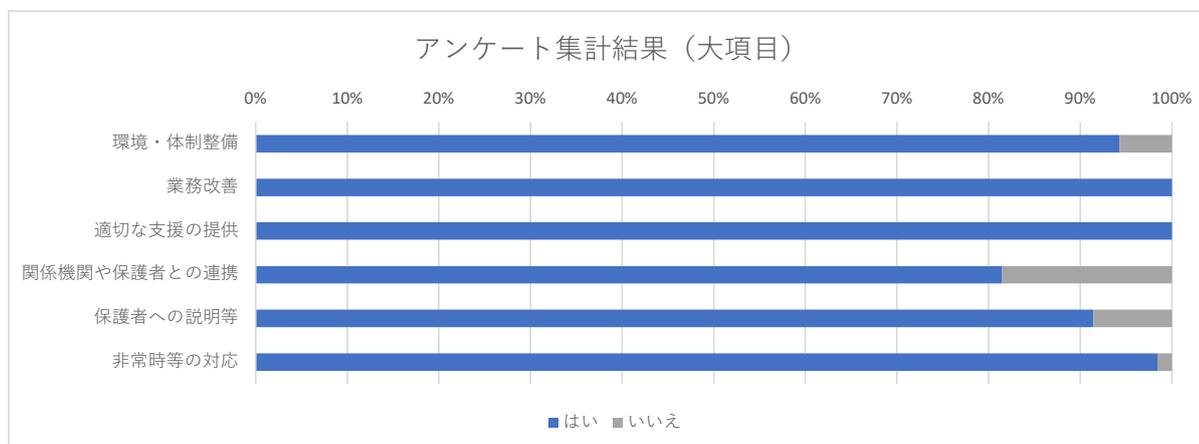
2. アンケート集計結果(大項目・小項目)

大項目	小項目	回答数			回答割合	
		はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	7	86%	14%
	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	7	100%	0%
	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	7	86%	14%
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	7	100%	0%
	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	7	100%	0%
業務改善	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	7	100%	0%
	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	7	100%	0%
	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	7	100%	0%
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	7	100%	0%
	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	7	100%	0%
適切な支援の提供	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	7	100%	0%
	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	7	100%	0%
	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	7	100%	0%
	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	7	100%	0%
	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	7	100%	0%
	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	7	100%	0%
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	7	100%	0%
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	7	100%	0%
	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	7	100%	0%
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	7	100%	0%
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	7	100%	0%
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	7	100%	0%
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	7	100%	0%
	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	7	100%	0%
	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	7	100%	0%

関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	7	100%	0%
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	7	100%	0%
	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	7	100%	0%
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	7	100%	0%
	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	3	7	57%	43%
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	7	100%	0%
	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7	7	0%	100%
	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3	7	57%	43%
	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	7	100%	0%
	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	7	100%	0%
保護者への説明等	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	7	100%	0%
	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	7	100%	0%
	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	7	100%	0%
	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	7	100%	0%
	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	0	7	100%	0%
	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	7	100%	0%
	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	7	100%	0%
	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	7	100%	0%
	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	7	100%	0%
事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	7	14%	86%	
非常時等の対応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	7	100%	0%
	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	7	100%	0%
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	7	100%	0%
	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	7	86%	14%
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	7	100%	0%
	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	7	100%	0%
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	7	100%	0%
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	7	100%	0%
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	7	100%	0%

3. アンケート集計結果(大項目)

大項目	回答数			回答割合	
	はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	33	2	35	94%	6%
業務改善	35	0	35	100%	0%
適切な支援の提供	105	0	105	100%	0%
関係機関や保護者との連携	57	13	70	81%	19%
保護者への説明等	64	6	70	91%	9%
非常時等の対応	62	1	63	98%	2%



4. 自己分析

① 事業所の強み

子どもや保護者のニーズに応じ、安心して過ごせるよう工夫された支援を提供している。
専門職を含む職員が連携し、環境を使い分けながら日常生活の困り感軽減に取り組んでいる。

② 工夫している取組

職員間の話し合いや支援前後の打ち合わせを通じ、子どもの小さな変化を共有している。
活動計画に基づき、遊具配置や部屋の使い分けなど、子どもに合った環境設定を行っている。

③ さらに充実を図るための取組

保護者との対話の機会を増やし、よりニーズに沿った支援につなげていく。
研修参加や人員体制の充実、クラス間交流の工夫により、支援内容の幅を広げる。

④ 事業所の弱み

立地や事業所の性質上、地域交流の機会が限られている。
看護師の常駐がなく、また男性職員が少ない点が課題である。

⑤ 課題の要因

安全面への配慮や職員体制の制約により、地域交流の実施が難しい。
医療職や男性職員の採用希望者が少なく、人材確保が進みにくい。

⑥ 改善に向けた取組

SNSでの情報発信や安全対策の強化により、地域や保護者とのつながりを広げる。
研修体制の充実や採用への働きかけ、職員間での共有を通じて支援の柔軟性を高める。

5. 所感

・子どもや保護者のニーズを聞き取り、アセスメントと照らし合わせて一人一人に合った支援を工夫できているという結果になりました。本人や保護者の困り感やニーズに適切対応できるよう、保護者との対話の機会を積極的に設けていきたいという意見が出ております。また、質の高い支援を提供できるよう内部研修、外部研修に積極的に参加していきたいと感じている職員が多数おりました。多くの職員が研修に参加しスキルアップが出来るよう勤務の調整に努めてまいります。

・環境面においては、人員に対してのスペースが適切ではないと捉えている職員もおりましたが、一方で遊具の使い方や部屋の使い分けをするなど環境設定の工夫がなされているとの意見もありました。ハード面の活かし方、また子どもに適した環境への配慮につきましても、柔軟に対応してまいります。

・地域住民との交流の機会は、サービスの性質上実施することが出来ませんでした。SNSなどにより、地域に開かれた施設として情報を提供してまいります。また、看護師や男性職員が少ない点についても施設の課題と捉えております。医療的ケア児の受入れや同性介護の実施を困難にしております。今後も働きやすい環境の整備に努めてまいります。

児童発達支援管理責任者 細野朋子

【Bringupもりのみ幼児教室】

《放課後等デイサービス》従業者アンケート集計結果

1. アンケート配布数・回収数・回収率

配布数	6	回収数	6	回収率	100%
-----	---	-----	---	-----	------

2. アンケート集計結果(大項目・小項目)

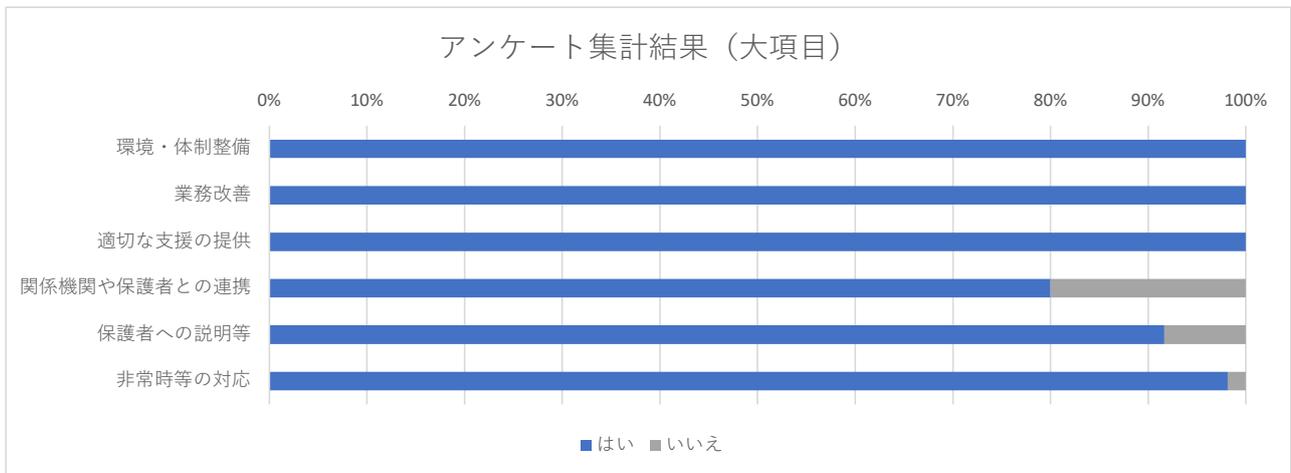
大項目	小項目	回答数			回答割合	
		はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	6	100%	0%
	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	6	100%	0%
	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	6	100%	0%
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	6	100%	0%
	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	6	100%	0%
業務改善	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	6	100%	0%
	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	6	100%	0%
	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	6	100%	0%
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	6	100%	0%
	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	6	100%	0%
適切な支援の提供	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	6	100%	0%
	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	6	100%	0%
	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	6	100%	0%
	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	6	100%	0%
	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	6	100%	0%
	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	6	100%	0%
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	6	100%	0%
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	6	100%	0%
	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	6	100%	0%
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	6	100%	0%

	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	6	100%	0%
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	6	100%	0%
	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	6	100%	0%
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	6	100%	0%
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	6	100%	0%
	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	6	100%	0%
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	6	67%	33%
	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	6	33%	67%
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	5	6	17%	83%
	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5	1	6	83%	17%
	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	6	100%	0%
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	6	100%	0%
	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	6	100%	0%
保護者への説明等	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	6	100%	0%
	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	6	100%	0%
	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	6	83%	17%
	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	6	100%	0%
	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0	6	100%	0%
	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	6	100%	0%
	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	6	100%	0%
	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	6	33%	67%

非常時等の対応	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	6	100%	0%
	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	6	100%	0%
	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	6	100%	0%
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	6	83%	17%
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	6	100%	0%
	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	6	100%	0%
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	6	100%	0%
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	6	100%	0%
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	6	100%	0%

3. アンケート集計結果(大項目)

大項目	回答数			回答割合	
	はい	いいえ	合計	はい	いいえ
環境・体制整備	30	0	30	100%	0%
業務改善	30	0	30	100%	0%
適切な支援の提供	90	0	90	100%	0%
関係機関や保護者との連携	48	12	60	80%	20%
保護者への説明等	55	5	60	92%	8%
非常時等の対応	53	1	54	98%	2%



4. 自己分析

① 事業所の強み

個別支援計画に基づき、安全確保やクールダウン環境を整え、一人ひとりに応じた支援を行っている。
少人数体制を活かし、職員間で連携しながら小集団活動や柔軟なグループ編成が可能である。

② 工夫している取組

視覚的掲示や施錠、職員配置などにより、子どもが安心して過ごせる環境づくりを行っている。
支援前後の振り返りや日常的な話し合いを通じて、支援の方向性を共有している。

③ さらに充実を図るための取組

職員間の情報共有をより意識的に行い、支援の質の向上を図る。
専門性の向上と関係機関との連携を進め、継続的な支援体制の構築を検討する。

④ 事業所の弱み

OT・ST等の専門職が常時配置されておらず、専門性の補完に課題がある。
職員数が限られており、欠勤時など人員面で余裕がない場合がある。

⑤ 課題の要因

人材確保の難しさや施設規模の制約により、専門職配置や個別対応に限界が生じている。
送迎サービスがないことなど、利用条件による制約も影響している。

⑥ 改善に向けた取組

センター職員や専門職との連携を強化し、専門性の補完と支援力の向上を図る。
人員体制の工夫と、集団支援と個別支援を柔軟に組み合わせた対応力の強化を進める。

5. 所感

少人数体制を活かして、一人一人に応じた支援に取り組んでいるという意見が出ております。
また、職員間で日々情報共有をして連携を取りながら、子供が安心して過ごせる環境づくりを行っているとの意見も出ております。
一方で、小規模だからこそ課題点もあるとみております。職員数が限られており、専門職の配置など、人材確保の面が課題になっているという意見が多数出ておりました。またその課題に対して、関係機関と連携を取るなどの手立てが不十分であるとの見方がありました。
今後も、職員間で連携を取りながら、一人一人に目を向けた支援を心がけていきます。
改善点として、センターのOTやSTなどとの連携の強化を図り、専門性の補完に努めて参ります。

児童発達支援管理責任者 高山 規江